

RID 2780

茅ヶ崎ロータリークラブ週報



第 62 代会長 古知屋光洋

2021-2022 年度

第 62 代幹事 加瀬 義明

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

Painted by Kenzo Tanaka

〔事務局〕 〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町 13-29 茅ヶ崎商工会議所 3 階 TEL : 0467-83-6060 FAX : 0467-83-9915

メール : c3rc@io.ocn.ne.jp 〔例会場〕 〒253-0073 茅ヶ崎市中島 1341 コルティール茅ヶ崎 TEL : 0467-87-0002

2021 年 11 月 11 日(木) 第2948回例会 天候:晴れ 司会:富田桂司副幹事 No. 15

＝本日の例会行事＝

- ◇歌唱 「我等の生業」「覇気あれ我クラブ」 ◇会長挨拶
- ◇幹事報告
- ◇卓話 ゲストスピーカー前川朋子様 (R財団学友) 「もっと知りたいベートーヴェン」

◎ゲスト・ビジター紹介

前川朋子様 (R財団学友・ゲストスピーカー) 佐藤 浩様 (古知屋会長ゲスト)

◎表彰

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー6回目 加藤 寛君 (PHFルビーピン+1 授与)

◎幹事報告

◆RI日本事務局より

☆日本事務局「在宅勤務延長」のお知らせ 〇期間・・・11/1(月)～11/30(火)

◆ガバナー事務所より

☆2021-22年度国際ロータリーゾーン1A,2,3 第50回ロータリー研究会 記念講演会 オンライン視聴のご案内

〇12/8(水) 15:00～16:45 〇オンライン配信 (YouTube) …視聴登録なし

〇講演者…福岡伸一様 〇演題…「ポストコロナの生命哲学」 ※講演の詳細は <https://ri-seminar.com>

◆玉欄荘より ☆玉欄荘だより 172号

◆茅ヶ崎商工会議所より

☆生活文化創造都市フォーラム「茅ヶ崎地域会議」ご参加のお願い

〇11/25(木) 14:00～16:00 〇茅ヶ崎商工会議所 大会議室

◆ロータリーの友 11月号

◆タウンニュース

スマイル報告代読の水嶋会員



表彰の加藤会員と野中ソングリーダー



ゲストスピーカー前川朋様がテアトロ・オリムピコで熱唱されている様子

日時	回	現会員	計算会員	出席	MU済	欠席	暫定出席率	修正出席率
11/11	2948	40	36	26	7	3	91.67%	
10/28	2946	40	31	30	1	0	100%	100%

卓話 前川朋子様 (R財団学友)
『もっと知りたいベートーヴェン』

1996-97 年度国際親善奨学生 財団学友の前川朋子と申します。本日は茅ヶ崎 RC の皆様にお会いでき、嬉しく思っております。留学から帰国しだいぶ経ちますので、前半は私のこれまでの音楽活動をいくつか簡単に紹介させていただき、後半はベートーヴェンのお話しをさせていただきますと思います。

私は幼稚園から高校まで地元の湘南白百合学園で学びました。規律の厳しい学校でしたが、カトリック聖歌やミサ曲、コーラス部など音楽に囲まれた環境で育ち、卒業後、声楽を志して国立音楽大学の声楽学科に進学しました。

その後二期会オペラスタジオを経て、ロータリー財団奨学生の試験で合格をいただき、ドイツ・デトモルト音大に留学いたしました。デトモルトはドイツ北西部に位置する人口7万人ほどの都市。昔はリッペという小国でした。こちらが中世のこじんまりとした美しいお城です。自然と文化、人々の生活がバランス良く保たれていることに、当時の私は非常に感動しました。デトモルトでは、築400年の木組みの家に住んでいました。

ドイツから帰国後演奏活動を開始しましたが、思うところありもう一度イタリア・ミラノにて研鑽し、2005年に帰国、その後東京室内歌劇場、東京二期会に所属し、現在演奏活動を続けております。今日は駆け足ではございますが、いくつかのフォトジェニックな演奏会の模様をご覧くださいと思います。

まず、こちらの写真は、ゲノフェーファというオペラから。シューマン唯一のオペラ作品。とてもメルヘンチックなドイツらしいオペラで、私はゲノフェーファ役をやらせていただいた、思い出深い作品です。続いて、2015年のフィンランド・ヘルシンキで行われたジャパンウィークでの演奏。サウンドアート動画とのコラボレーションにて、日本の歌、フィンランドの歌を600人のフィンランド市民の皆様にお楽しみいただきました。続いて、日本イタリア協会主催の、イタリア・ヴィチエンツァのテアトロ・オリンピコでの演奏。こちらは建築家パツァーディオが1585年に建設した、世界最古の屋内劇場で、世界遺産になっています。天正遣欧少年使節も、建設直後に立ち寄っているこの場所で、同時に思いを馳せながら歌いました。以上、ピックアップでしたが、私の音楽活動についてお話しさせていただきました。

さて、ここからは、「もっと知りたいベートーヴェン」というテーマでお話しさせていただきます。

昨年はベートーヴェン生誕250年でした。1770年生まれ、56歳で没しています。同時代の日本の画家に葛飾北斎がいます・・・江戸の文化も華やかになりし頃、ウィーンではベートーヴェンが活躍していたのですね。少し身近に感じていただけるでしょうか。

ドイツのボンで生まれましたが、小さい街ながら、当時から文教都市であり、貴族と市民が共に読書協会などで学ぶような気風が少年ベートーヴェンの精神を養いました。そして父も祖父も宮廷音楽家だったので、ピアノ、ヴァイオリン、オルガンなどの教育を受けていました。弟は二人いました。しかし父はやがて酒に溺れるようになって、ベートーヴェンの母は苦勞し、若きベートーヴェンは貴族の子女にピアノを教え、一家の大黒柱のようになっていました。とても苦勞した十代を過ごしたのですね。

さて皆様のご存知のベートーヴェン像はどんなものでしょうか。キーワードでは難聴、運命、エリーゼのために、第九、月光ソナタ、引越し魔、恋多き人生、などかと思えます・・・

彼は22歳の時にウィーンへ移り、ハイドンに師事しました。ウィーンでは前年にモーツァルトが亡くなっている年ですので、まるでバトンが渡されたような、音楽史の転換点を感じますね。ブルク劇場(スライド)でピアニストとしてデビューを飾り、ドイツのボンから来た若い名ピアニストとして、貴族のサロンに呼ばれ、即興演奏を披露する日々でした。作曲家として才能豊かなベートーヴェンでしたが、このように最初はピアニストとして注目されていたのです。ベートーヴェンはその才能ゆえ、さまざまな貴族から支援を受けていました。よって多くの作品が伯爵や夫人、令嬢などに献呈されています。

ウィーンで70回も引越したというベートーヴェン。32歳の時は耳の病の治療として、静寂の中の静養を医師から勧められ、ワイン畑の広がるウィーン郊外、のどかなハイリゲンシュタットに住んでいました。彼は弟に宛ててここで「ハイリゲンシュタットの遺書」を書きましたが、これは投函されませんでした。彼を悩ませていた難聴の病名は、いろんな説(ワインの飲み過ぎによる鉛中毒など)がありましたが、今では耳硬化症だと言われています。ではここで、その頃の作品、歌曲「Bitten (祈り)」をお聴きください。病気が治るよう、神に祈り続けたであろう彼の気持ちをうつつしているような、敬虔な曲調です。ピアノは財団学友でもある、黒澤美雪先生です。

さて、「ハイリゲンシュタットの遺書」、このようなことが書き記されています。音楽家としての最も重要な感覚である聴覚を失いつつあった彼は、自殺をも考えたのですが、芸術への情熱がそれを留まらせたといいます。この遺書ののち、運命を受け入れた彼の作曲活動は、今まで以上に精力的になります。このときの、病を乗り越えていく彼の精神力、情熱には、だれしも感動せずにいられません・・・



ゲストスピーカーの前川朋子様。素敵な歌声も披露して頂きました



卓話の続きとスマイル報告は別紙となります

